

益子図書館だより 第16号

令和5年11月

こんにちは、益子町中央公民館図書室です。昨今短くなったといわれる秋ですが、読書にスポーツ、芸術と、やりたいことは盛りだくさんです。図書室はハウツー本やレシピ本、旅行ガイドブックなど、さまざまなジャンルの本で読書以外の「やりたい」もサポートします。

◇巻頭エッセイ：日光を見ずして 結構と言うなかれ◇

数十年ぶり(!)に日光に行ってきました。東照宮の建築や彫刻の壮麗さは子どもの頃の記憶を大きく上回り、件のことわざの意味を実感しました。

図書館でも建築の美しさや様々な意匠で知られるものは数々ありますが、東照宮のように突出したものはないのでは、と思います。「〇〇図書館を見ずして図書館を語るなかれ」ということわざは成立しないかもしれないですね。

そして、図書館で大切なのは建築というより、その中身。どんな本をどのように並べるか、そこでどんな活動をするか、です。これはそのまちによって必要とするものが違いますので、他の図書館を参考にこそすれ、そのまま真似しても意味がないですし、「これが一番」「これが正解」というものはありません。益子町にとって最善なものを、自分たちで考えてつくっていかねばなりません。

いつか「図書館を見ずして益子町を語るなかれ」と言われるような、町民に愛され、誇りに思われるような図書館にしていきたいと考えています。 [大]



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 図書室カレンダー ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

11月

12月

月	火	水	木	金	土	日
30	31	1	2	3 祝	4	5
6 休	7	8	9	10	11	12
13 休	14	15	16	17	18	19
20 休	21	22	23 祝	24	25	26
27 休	28	29	30	1	2	3

月	火	水	木	金	土	日
27	28	29	30	1	2	3
4 休	5	6	7	8	9	10
11 休	12	13	14	15	16	17
18 休	19	20	21	22	23	24
25 休	26	27	28 休	29 休	30 休	31 休

平日(火～金) 朝9時から夜7時まで
年末年始休館: 12/28(木)～1/3(水)

土・日・祝日 朝9時から夕方5時まで

◇大変身！特別整理でこうなりました◇

10月末の特別整理休館では、ご迷惑をおかけしました。日常業務の合間にも小さな進化を続けている図書室ですが、休館中の作業では、日頃なかなか手が出せないような大規模な棚移動も行うことができました。以下、今回変更した棚をご紹介します。

★益子資料コーナーを移動しました

「益子」と言われたら「焼」と続けたくるほど、益子町と焼き物は切っても切れない関係です。益子町で発行された焼き物に関する資料もたくさんありますが、これまでは「益子資料コーナー」に置いてあるものと、「やきものコーナー」に置いてあるものに分かれ、離れたところにある2つのコーナーをそれぞれチェックしなければなりません。そこで、「益子資料コーナー」を「やきものコーナー」の隣に置き、益子町でつくられた焼き物や、また焼き物の背景にある益子町をより感じられる配置としました。

また、図書以外の資料で益子の「今」を感じられる「広報ましこ」バックナンバーや「真岡新聞」バックナンバー、各町内の環境保全会が作成した生きもの調査ファイルは、辞典・事典類の並びとしました。どちらも閲覧・学習席に面した棚なので、調べ物をする際の持ち運びも楽になりました。

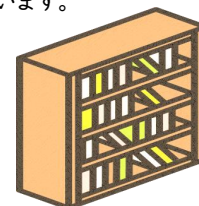
★大型本コーナーをつくりました

美術全集のような大きな本は重さもなかなかのもので、ちょっと中を見るにも一苦勞です。そこで、閲覧・学習席近くの窓下の棚に大型本のコーナーをつくりました。内容を確認するためにパラパラ見ただけのときも、棚の上がそのまま台代わりになって楽々広げられ、ちょっとしたメモを取ることもできます。じっくり読みたいときには、閲覧・学習席へ。最小限の距離での移動が可能です。



★闘病記コーナーをつくりました

9月末から国立がん研究センターがん対策研究所から寄贈されたがんに関する冊子やチラシの配布も始まり、ますます充実してきた医療・健康情報コーナー。けれど、いざ自分や家族が病気になったときには、専門的な情報はさることながら、「他の患者さんはどうやって病気と向き合っているんだろう」「周囲の人間はどのように接し、支えていけばいいんだろう」といったことも気になってきます。そこで、ルポルタージュ(916)を中心に、当事者や家族の手記を集めた闘病記コーナーを医療・健康情報コーナーに併設しました。同じ病気と闘う先達の姿は、きっと参考になることと思います。



◇図書室資料でふりかえる陶器市◇

益子陶器市は「とちぎの祭り100選」にも選ばれている町を代表する一大イベントです。その歴史は1966年(昭和41年)までさかのぼることができますが、この60年弱は必ずしも順風ばかりではなかったことでしょう。図書室の資料をひもときながら、陶器市の歴史をふりかえてみましょう。

昭和30年 (1955年) 『益子町の観光と物産』 郷土新誌社
雑誌「郷土新誌」昭和30年12月号としてこの本が発行されたのは、益子焼を一躍有名にした「峠の釜めし」容器の受注の前年のこと。掲載されている「座談会:益子焼振興のために」では、日用品生産の衰退の危機感や、生産者が一丸となった組織の強化などが今後の課題として討論されています。

昭和41年 (1966年) 『益子探訪』 倉本秀清/著 光芸出版
その道を究めんとする姿勢に感じ入った著者が益子の陶芸家を訪ね歩いて綴ったこの本では、成井藤夫氏についても一章を割いています。成井氏が共販センターを設立してから陶器市の人気定着するまで、宣伝費等の資金繰りに苦労された様子がうかがえます。

昭和63年 (1988年) 『益子』 益子町役場企画課/編集 益子町 ※「町勢要覧」昭和63年度版
昭和56年4月のNHK全国番組での紹介以降、陶器市の人気は拡大し、この町勢要覧でもぼんたくんを背景に共販センターのにぎわいぶりを見ることができます。この年の春に新生・真岡鐵道が始動したこともあり、真岡線に乗って訪れる方も多かったようです。

平成29年 (2017年) 「広報ましこ」平成29年(2017年)12月号
この年秋の陶器市は記念すべき第100回。益子町出身のタレント井上咲楽さんを宣伝部長としてお招きし、盛り上がりを見せました。

令和3年 (2021年) 「真岡新聞」令和3年(2021年)5月21日号
コロナ禍のため令和2年春から中止となっていた陶器市の代替として、陶芸メッセの芝生広場で益子モノ市が開催されました。入場制限により、来場者は晴天の下ゆったりと買い物を楽しむことができ、好評でした。

令和5年(2023年)11月3日(金・祝)~11月6日(月)
第108回 益子秋の陶器市

参考資料:『益子町史 第5巻』益子町史編さん委員会/編集 益子町
※ご紹介した資料はすべて貸出はできませんが、図書室内で自由にご覧いただけます。

◆◆ とっくん号 運行スケジュール ◆◆

荒天その他の事情により、移動図書館とっくん号のスケジュールを変更することがあります。最新運行スケジュールは図書室ホームページからご確認ください。



※学校等一般の方に公開していない巡回先は記載していません。
ホームページ <https://library.town.mashiko.tochigi.jp/>

○道の駅ましこ……………11/4(土)・12/2(土) 正午~午後2時
○ましコココハウス……………11/18(土)・12/23(土) 午前10時30分~午前11時30分

◆◆◆◆◆ イベント情報 ◆◆◆◆◆

◆とっくん号のおはなし会◆

11月18日(土)・12月23日(土) 午前10時30分~ ましコココハウス
演者:かたつむりの会

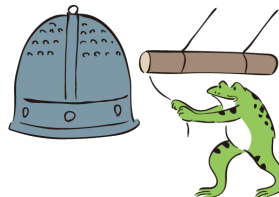
◆冬のおたのしみ会◆

12月23日(土) 午後2時~3時
場所:中央公民館2階 和室
演者:かたつむりの会

◆◆◆◆◆ 新着図書 ◆◆◆◆◆

分類	本のタイトル	書いた人	出版社
大人の本			
社会	マイナ保険証の罠	荻原博子/著	文藝春秋
自然科学	たった3分間のすごい世界	大崎章弘/監修	えほんの杜
家事	子育てプレスト	佐藤ねじ/著	小学館
小説	存在のすべてを	塩田武士/著	朝日新聞出版
こどものほん			
えほん	あきのおさんぽいいものいくつ?	おおたぐろまり/さく	福音館書店
こうぎょう	カタチのひみつ図鑑		スタジオタッククリエイティブ
ことば	目でみるえいごのずかん	おかべたかし/文	東京書籍
ものがたり	杉森くんを殺すには	長谷川まりる/作	くもん出版

ほかにも たくさん はいりました。



【お問合せ先】

益子町中央公民館図書室(益子町生涯学習課)
TEL:0285-72-3101 FAX:0285-72-3110